

2026 6

No.307



GP

全グラ情報

JAPAN



プライドを持ってパッケージを社会に

東海グラビア印刷協同組合
理事長 杉山真一郎



東海地区の理事長をしております杉山です。よろしくお願ひします。本原稿は4月に書いておりますが、きっとGPJAPANの4月号や5月号においてもイラン戦争およびその影響について言及していることと思ひます。

実際に6月号が発刊された時、イランが、世界が、そして日本がどのようになっているのか？ 悪い想像はしたくありませんが、4月の執筆時点では業界は6月危機ということが言われております。皆様もご承知の通り、日本は過去のオイルショックを教訓に石油備蓄について法律を定め、世界でも類のない250日以上の備蓄をしていました。まさに今回それが役に立っているのは事実でしょう。

しかし、今我々が困っているのはナフサです。ナフサの備蓄が開戦前20日程度しかなかったこと、ナフサも輸入に頼っており多くが中東に依存していたこと、韓国からも1割程度のナフサを輸入していたがそれも輸入停止になったこと、そして今年国内にあるエチレン生産設備が定修の当たり年であったことなど、色々な要因が重なり6月危機が叫ばれています。一刻も早く戦争が終結し、ホルムズ海峡封鎖が解除され、ナフサ輸入の再開、エチレン設備の稼働により樹脂、フィルム安定供給が再開することを切に願っております。

ただし、戦争前の供給状態に戻るにはしばらく時間がかかるでしょう。しかしながら昨年秋以降、つまり戦争前からフィルムの出荷数量は決して良いものではありませんでした。よって、多少の供給ダウンであれば我々の業界については大きな影響はないのではという気もしております。あまりに悲観的情報はパニック、情報歪曲を煽るため、正確な情報に基づき事態に対処する「正しく事態を恐れる」というスタンスが必要と思っております。

冷静な対応と組合員、賛助会員同士の密なコミュニケーションが大切だと思っておりますので、是非皆様と一緒にこの苦難を乗り越えていきたいと思ひます。

今回の危機に際し、多くの皆様があらためてプラスチックは社会、生活に必要な不可欠なものであり、そして依存しているということを感じたと思ひます。日

本は石油を輸入しておりますが、その総輸入量を 365 日で割ると大型タンカー（200 万バレル級）が毎日 1 隻は日本に到着しているという事実が分かりました。

3月28日、赤澤経済産業大臣がホルムズ海峡を通らないルートでタンカーが愛媛に到着すると発言し、多くの国民が良かったという気持ちになったと思います。調べてみると 60 万バレル級のタンカーでした。先ほど申し上げた通り、日本には計算上毎日 200 万バレルのタンカーが来ている計算を踏まえ、全く足りていないと思ったのと同時に、片道 1 カ月、往復 2 カ月という時間をかけて輸送してきた貴重な石油が数日で精製されてしまうようなオペレーションをしているということに違和感を覚えました。プラスチックの素晴らしさは間違いありませんが、石油をこのような使い方をして良いのか？ こういった危機を経験し今後どのようにすべきなのか？ バイオマスやリサイクルということは考えざるを得ないと思います。平時に戻るとどうしても結局「値段」になってしまいますが、今回はそうならないよう、この経験を生かした石油の使い方、プラスチックの作り方、危機に強い日本になってほしいと思います。

さて前回の巻頭言にも書きましたが、当社の入社式の際、新入社員に対して「包」という漢字の成り立ちについて話をしました。「包」という漢字は象形文字だそうで、一説によると、「勹」（つつみがまえ）は横から見た人の形を描いたもの。その中に「己」という字を書きますが、もとは「巳」という字だったそうで「巳」は胎児の形を表しているそうです。つまり、「包」という漢字は胎内に赤ちゃんを宿したお母さんの象形文字、大事にお腹の子をかかえ込んでいる形を表しているそうです。「包む」に関係した仕事をしている私にとりまして、調べていて大変心が温まりました。

今回の危機が業界にとって何をもたらすのか？ 私はあらためてパッケージが社会にとって必要不可欠なものであり、我々は供給という大事な使命を担っているということが認識され、業界の認知度や社会的ステータスが上がることにつながり、それが働いている人のモチベーション等、良い影響があればと思います。

当社の社是にもつながりますが、プライドをもってパッケージを社会に提供し、業界の繁栄、会社の発展がそこに携わる人たちの幸せにつながるよう、皆さんと歩んでいきたいと思っています。食品パッケージは絶対になくなりません。今後ともよろしく願います。

中小規模事業場の
みなさまへ

労働安全衛生法に基づく 化学物質管理の無料相談窓口

労働安全衛生法に基づく「新たな化学物質規制」に関するご質問にお答えします。

労働安全衛生法の関係政省令改正のポイント

- ◇ 自律的な管理に向けた実施体制の確立
- ◇ ラベル・SDS・リスクアセスメント義務対象物質の大幅増加
- ◇ 労働者がばく露される程度を濃度基準値以下または最小限度にする義務
- ◇ 化学物質を製造・取扱う労働者への適切な保護具の使用
- ◇ 通知対象物に係る代替化学名等の通知制度の整備

よくあるお問い合わせ

ラベル・SDS

- ・ ラベルやSDSが必要になるのはどんな化学物質や化学品か
- ・ ラベルやSDSの表示義務は
- ・ 海外輸出・輸入品のSDSはどうしたらいいか
- ・ 秘密保持の対応について

リスクアセスメント

- ・ 化学物質のリスクアセスメントはどのように行えばいいか
- ・ 「CREATE-SIMPLE」の使用法
- ・ リスクを低減するためにはどのような対策をとればよいか

政省令

- ・ 化学物質の「自律的管理」とはどのようなことか
- ・ 新たな化学物質規制にはどのように対応すればいいか
- ・ 特殊健康診断の実施頻度緩和とは何か
- ・ 濃度基準値の確認方法は
- ・ 譲渡提供で必要なこと

開設期間

令和8年 4月1日～令和9年 3月18日

(土日祝日、年末年始除く)

月～金 10:00～17:00 (12:00～13:00除く)



050-5577-4862



お問合せフォーム

テクノヒル 相談窓口

検索

テクノヒルHP (<https://technohill.co.jp/>) よりご利用いただけます。

※相談は無料ですが、通話料がかかります。

※メールでのお問い合わせは、内容により電話回答とさせていただきます場合があります。



令和8年度厚生労働省委託事業「化学物質管理に係る相談を通じた周知事業」
【事務局】テクノヒル(株)化学物質管理部門 <https://technohill.co.jp/>



GP JAPAN

全グラ情報

2026年6月号 No.307 全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙



赤澤亮正経済産業大臣と全グラメンパーによる面会の様子。左から、古原宗彦理事長、杉山真一郎理事長、田口薫会長、赤澤経産相、藤川政人参議院議員、セブンパックスの飯田正志代表取締役、トップ堂の飯田智久専務取締役、下田幸二専務理事。詳細は6頁参照

CONTENTS

巻頭言 プライドを持ってパッケージを社会に ①

東海グラビア印刷協同組合 理事長 杉山真一郎

全グラ

全国グラビア協同組合連合会：赤澤経済産業大臣を訪問 ⑥

全国グラビア協同組合連合会：日印産連との打ち合わせを実施 ⑦

全国グラビア協同組合連合会：定例理事会を開催 ⑧

組合員・単組の近況

埼玉県グラビア協同組合：第57回通常総会を開催 ⑨

関東グラビア協同組合：第56回通常総会・理事会を開催、供給目詰まり解消と過剰品質是正を要望 ⑩

東海グラビア印刷協同組合：理事会を開催 ⑱

Gravure

特別座談会「日中軟包装産業の現在と未来」を上海で開催、テーマは水性グラビア、フレキソ、デジタル印刷、人材 ⑳

(一社)日本印刷学会 技術委員会 グラビア印刷技術研究会：グラビア研究会 第12回グラビア基礎講座、7月22日にオンライン開催 ㉔

Packaging

NEDO、三井化学(株)、東レ(株)：フィルム包装製造CO₂排出量を約6割削減、業界初のプロセスとEB硬化型接着剤を開発 ㉔

JFPI

(一社) 日本印刷産業連合会：適正ではない取引に関する報告・相談窓口を設置… 29

酒は永遠の友 vol.17 田口 薫 …………… 30

Data Watch 2026年2月データ …………… 32

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2026年3月 … 38

GP 認定制度申請についてのお願い …………… 42

GP 工場認定制度無料説明会のご案内…………… 44

NEWS Pickup …………… 46

丸東産業(株)、TOPPAN(株)、(株)セブン-イレブン・ジャパン

Information

日本食品包装協会、6月17日に食品包装セミナーを開催 …………… 17

GRA、南アフリカで初開催の「Talks Factory@CTP」へ

グラビア業界関係者が集結 …………… 19

GPJAPAN は全国グラビア協同組合連合会が
発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで
15,000 円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会まで。
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発行：2026年6月10日

発行人：田口 薫 (全国グラビア協同組合連合会会長)

発行所：全国グラビア協同組合連合会

〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9

あさひ墨田ビル

TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814

編集スタッフ：下田幸二 (全国グラビア協同組合連合会専務理事)

酒井由香 (全国グラビア協同組合連合会)

編集協力：(株)加工技術研究会

印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2026

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPAN の無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

全国グラビア協同組合連合会

赤澤経済産業大臣を訪問

2026年4月28日（火）、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長、吉原宗彦理事長（関東グラビア協同組合）、杉山真一郎理事長（東海グラビア印刷協同組合）、下田幸二専務理事は経済産業省を訪れ、赤澤亮正経済産業大臣と面談しました。

赤澤大臣との面会にご配慮いただいた藤川政人参議院予算委員長、(株)セブンパック飯田社長、飯田取締役にもご同席いただきました。経済産業省からは、素材産業課の土屋博史課長、文化創造産業課・文化創造産業海外需要開拓室の荻野洋平室長にもご出席いただきました。直近の中東情勢悪化に伴う原材料の調達不安と原料価格の暴騰、過剰品質要求に絡む製品ロス等の課題について、熱く状況を説明しました。

赤澤大臣からは、「日本全体としては、原油やナフサの必要量は確保しているが、一部で、供給の偏りや流通の目詰まりが生じ、川下まで行き渡っていないことは認識しているので、具体的にどの原料がどこで目詰まりを起こしているかの対策を取るための具体的状況を報告してほしい」旨、お話をいただきました。

中東情勢の先行きが不透明な中、当面、原料調達には苦戦が続きそうですが、中央官庁からの支援も得ながら、この難局を乗り切りたいと考えています。



全国グラビア協同組合連合会

日印産連との打ち合わせを実施

2026年4月28日（火）、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長、吉原宗彦理事長（関東グラビア協同組合）、下田幸二専務理事は、（一社）日本印刷産業連合会（日印産連）を訪問し、緒方専務理事、高島常務理事、飯島常務理事と面談しました。

同日午前中に、経済産業省にて赤澤亮正経済産業大臣と面会し、中東情勢悪化に伴う原材料の調達不安、原料価格の暴騰、過剰品質要求による製品ロスの課題等を説明してきた旨を報告しました。

赤澤大臣からは、「日本全体としては、原油やナフサの必要量は確保しているが、一部で供給の偏りや流通の目詰まりが生じ、川下まで行き渡っていないことは認識しているので、具体的にどの原料がどこで目詰まりを起こしているのかの対策を取るため具体的状況を報告して欲しい」旨のお話をいただいたことを説明しました。

今後は、経済産業省への報告資料の取りまとめや共同での報告説明等、日印産連ともより深く連携し、取り組んでいくことを確認しました。



全国グラビア協同組合連合会

定例理事会を開催

全国グラビア協同組合連合会（田口 薫会長、大日本パッケージ(株)）は、2026年4月23日（木）、第一ホテル両国「楓」にて、定例理事会を開催しました。

田口会長からのご挨拶に続き、①6月開催の全グラ総会（北海道）について、②日印産連からの報告事項について、③セミナー開催のお知らせ、④印刷技能人材機構からの報告事項について、⑤中東情勢悪化に伴う影響について、⑥単組近況報告、の議題に関して、活発な議論が繰り広げられました。

特に、⑤中東情勢悪化に伴う影響について、⑥単組近況報告では、フィルム、インキ、溶剤はじめ各種石化原料の調達不安と原料価格の暴騰については、全国各地から白熱した意見が出されました。「CPPフィルムの調達が厳しい」「溶剤では、トルエン、MEK（メチルエチルケトン）が来月には調達できないのではないか？」等々、生産をいかに継続できるかについて、核心に迫った意見交換となりました。「中東情勢が1日も早く落ち着き、6月の北海道総会では、笑顔で会いましょう」との祈りを込めて、散会となりました。



田口会長



組合員・単組の近況

埼玉県グラビア協同組合

第57回通常総会を開催

2026年5月20日(水)午後3時30分より、ホテルメトロポリタン「ジュピター」において、埼玉県グラビア協同組合(市村清一理事長、(株)ダイトー)通常総会を開催しました。

司会者の青野事務局長が開会を宣し、市村理事長が挨拶をしました。総組合員4名全員の出席のもと、下記議案審議に入りました。

第1号議案 令和7年度事業報告と決算承認の件

第2号議案 令和8年度事業計画書(案)と収支予算書(案)並びに経費の賦課及び徴収方法決定の件

以上の件を審議し、満場一致で承認されました。今後の組合活動がさらに活発なものになることを期待し、通常総会を終了しました。

引き続き、賛助会員とともに懇親会を開催しました。市村理事長と大日精化工業(株)営業統括部の齋藤担当部長が挨拶した後、東洋インキ(株)リキッドインキ営業本部営業2部の辻部長の乾杯の挨拶で始まり、サカタインクス(株)グラビアパッケージ事業部東京営業部の木次部長の締めめの挨拶で終わりました。久しぶりの宴ということもあり、和やかに時は過ぎました。

懇親会 snapshot



懇親会の様子



市村理事長



大日精化工業営業
統括部の
齋藤担当部長



東洋インキリキッドイ
ンキ営業本部営業2部
の辻部長



サカタインクスグラビ
アパッケージ事業部
東京営業部の木次部長

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合

第56回通常総会・理事会を開催 供給目詰まり解消と過剰品質是正を要望

関東グラビア協同組合（吉原宗彦理事長、東京加工紙㈱）は、2026年5月14日（木）午後3時より、東京・第一ホテル両国において第56回通常総会を開催した。当日は、本人出席15名、書面議決書・委任状提出30名の全組合員数45名が参加した。議長選出に当たり、下田幸二専務理事が諸石武士理事を指名し、諸石議長の進行のもと、第1～3号議案の審議に入った。本人出席は、吉原宗彦理事長（東京加工紙㈱）、田口 薫顧問理事（大日本パッケージ㈱）、安永研二副理事長（東包印刷㈱）、川田雄治副理事長（トーホー加工㈱）、村野 剛副理事長（信和産業㈱）、山下雅稔理事（㈱巧芸社）、千田 敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）、諸石武士理事（日本パッケージング㈱）、福島 潤理事（㈱東和プロセス）、森 茂紀監事（㈱千代田グラビアの佐藤裕芳監事の代理）、岸本一郎監事（㈱カナオカ）、下田幸二専務理事。

理事長挨拶



吉原宗彦理事長

冒頭、吉原宗彦理事長が次のような挨拶を述べた。

「中東情勢の緊迫化、ホルムズ海峡封鎖の危機によって、日本中が原油・ナフサの供給不安に陥り、我々の業界も大変な打撃を受けている。こうした状況を少しでも打開しようと、過日、経済産業省文化創造産業課を訪問した。また、東海グラビア印刷協同組合の杉山真一郎理事長より、東海地区の企業、セブンパックスの飯田正志社長を通じて参議院議員予算委員長の藤川政人氏を紹介いただけるとのお話から、

4月28日に赤澤亮正経済産業大臣に直接陳情ができる機会を得た（6頁参照）。この訪問では、軟包装業界のインフラとしての重要性を現職大臣に認識してもらったこと、ナフサ・溶剤の目詰まりの実態調査に動いてもらえること、異常・過剰品質問題について説明し、今後は使えるものは使っていくことに理解、支援をお願いしたこと、という大きな3つの成果を得た。



諸石武士理事

今後も皆様の声をしっかり行政、政府にお伝えしていくのでご支援ご協力をお願いしたい」

第1号議案 令和7年度事業報告及び決算関係書類承認の件

安永研二副理事長から、次のような令和7年度（2025年4月～26年3月）の事業報告が行われた。

〈事業報告〉

令和7年度は、米国トランプ大統領によるイラン攻撃、大胆な関税政策や安全保障政策の変更も重なり、世界中が翻弄される1年となった。中東情勢の悪化により、原油や石化製品の供給が途絶え、原料価格の暴騰、調達不安が続いている。現時点では、高価であっても原料を確保し、生産を継続させる事が喫緊の課題となっている。更には米中対立の激化、台湾有事リスクの上昇もあり、世界各地域での地政学リスクの高まりから世界の軍事費は過去最高水準を突破している。近年、世界経済はグローバル化の道を辿ってきたが、経済安全保障枠組みの見直しを迫られる1年ともなった。AI革命の加速により、新たな領域への展開も大いに期待される一方、経済の成長と衰退の2極化が進む事態となっている。

日本では、10月に憲政史上初となる女性総理大臣・高市早苗内閣が誕生した。矢継ぎ早に打ち出す積極的経済政策により日経平均株価は5万円を超える水準が定着し、デフレ時代からの脱却は達成できた。しかしながら、急激なインフレと金利高が庶民の生活を襲い、実質賃金が上がらない中、購買意欲が高まる環境には至っていない。また、TSMC熊本工場稼働やラピダスへの国家支援等半導体産業の復活政策も目を引いた。

地政学リスクが高まる世界で、日本の防衛費もGDP比2%に迫る勢いとなり、また、オーバーツーリズムが社会問題化する中での観光客数過去最高記録を塗り替える等、新たな課題が表面化する1年でもあった。多くの産業で人手不足の深刻化が叫ばれ、少子化も過去最悪の水準となっている。グラビア業界の人手不足も深刻化を増しており、一層、女性・高齢者の活用、省人化への取組、外国人労働者の雇用等が課題となっている。

更に、地政学リスクの高まりと1ドル150～160円で推移する為替相場の中で、原材料価格は終わりの見えない高騰が続いている。中東情勢の展開次第ではあるが、当面は原料調達不安と終わりの見えない価格高騰を覚悟しなければならない。製造コストに注目すれば、原料価格の暴騰のみならず、電力・ガス等のエネルギーコスト、物流費、人件費などの上昇も重なり、コストは右肩上がりの状況が続いている。原料メーカーの設備老朽化に伴う製品ラインアップ縮小、事業撤退等も連鎖し、ますます原料調達が厳しい環境となってきた。グラビア業界の明るい将来像は見通しにくい。多くの来場者が訪れ成功裡に終了した大阪万博やメダルラッシュに沸いたミラノ・コルティナオリンピックは、遥か遠い昔の出来事のようにも見える。

原料調達困難、急激なインフレに向かう潮流の中で、依然として適正価格への是正を見

送り、商品によっては価格引き下げを実施している大手流通・小売り事業者も見受けられる。仕入先からの適正価格是正要請を頑強に抵抗しながら、低価格のPB商品を拡充させている。そのため、食品メーカーを主要得意先とする当組合員の適正価格への是正交渉も難航する場合があります。企業経営が圧迫され続けている。2026年1月に施行されたいわゆる“取適法”をうまく活用しながら、我々中小コンバーターの利益向上を図り、従業員の賃金アップ、老朽設備の更新へと繋げなければ、中小コンバーターの道は開けない。当組合においては、全国グラビア協同組合連合会・日本印刷産業連合会と連携し、適正価格への是正活動を推進していきたい。

また、印刷産業の中では比較的安定していると言われてきた軟包装グラビア印刷においても、海洋プラスチック問題から派生したプラスチックは「悪」のイメージが多くメディアから発信され、間違った認識が一般社会に広まり続けている。それゆえ社会に不可欠な軟包材の供給責任を担う当組合としては、こうした状況を業界存続の危機と捉え、「全国グラビア協同組合連合会」を中心に「軟包装価値向上委員会」を発足、関係者の熱意により『軟包装のキャッチコピー』が誕生した。【目立ってしまいますが、実力もすごいです】とのキャッチコピーを旗印に、社会インフラを担う産業であるとの広報活動を続けた。「ソフトパッケージ（＝軟包装）」という新たなイメージ戦略を推進し、「●入れる●届ける●保つ●伝える」の4つの機能を紹介するコピーを、関係省庁・団体に発信、同時に当組合機関誌『GPJAPAN』に掲載し啓蒙に努めた。さらに、改訂版 Ver02にて「●閉じる●届ける●保つ●伝える」として啓発活動を推進している。

製造現場での人手不足解消の一貫として「外国人技能実習制度」の評価試験に注力してきた。出張による試験が中心だが、民間試験施設「岬試験会場」にて『何とか自社の工場稼働を止めずに試験実施が出来ないか?』という組合員の要望にも対応してきた。また、「特定技能」「育成就労」へ対応するために準備を進めている。なお、外国人雇用に関わる制度変更への対応については、日印産連、印刷技能人材機構、JAIM（一般社団法人工業製品製造技能人材機構）等と連携し、情報の共有、組合企業への情報発信、問い合わせ等に対応している。



岸本一郎監事

その後、**下田専務理事**が令和7年度財産目録、貸借対照表および損益計算書、剰余金処分案について報告を行い、**岸本一郎監事**が監査報告書を読み上げ、満場一致で承認された。

第2号議案 令和8年度事業計画、収支予算並びに経費の賦課金及び徴収方法決定の件

続いて第2号議案の審議では、**村野 剛副理事長**が次のような令和8年度（2026年4月～27年3月）の事業方針を読み上げた。

〈令和8年度事業計画〉

令和7年度は、トランプ大統領によるイラン攻撃、関税の大幅引上げ等により世界中が翻弄され、また、ウクライナでの戦争は終息の兆しが見えず、まったく先行きが見通せない状況となった。更に、米中対立の激化や台湾有事リスクの高まりもあり、世界各地で地政学リスクも高まり、原材料価格の高騰、供給不安も喫緊の課題となっている。米国・イスラエルによるイランへの攻撃が長引き、ホルムズ海峡の封鎖が続けば、原油・石化製品の調達不安、原料価格の高騰に拍車がかかり、世界経済の衰退も現実味を帯びてくる。

我が国も、世界経済の影響を受け、長年苦しんで来たデフレ経済から脱却したものの、想定を大きく上回るインフレに怯える状況となった。更に、石油関連原料の調達が大きな問題となっている。5%を超える賃金上昇が継続する環境が整いつつある一方、物価上昇率が賃金上昇率を上回り、実質賃金が上がらない状況が続いている。このため購買意欲が湧かず、盛り上がりには欠けている。グラビア業界でも輸入石化原料に由来するフィルム、インキ、溶剤をはじめ、エネルギー、ユーティリティ、物流経費の価格高騰も止まらない。1ドル150～160円近辺で定着しつつある為替相場も物価高騰に大きく影響している。製品の適正価格への是正が進まなければ、企業経営を大きく悪化させることから、今後とも適正価格への是正活動は最重要課題と位置付けて取り組まなければならない。また、製造現場での人手不足は日に日に深刻さを増している。高齢者・女性等の労働力も大いに活用しながら、IT等を駆使した省人化にも取り組むことも必要に迫られている。外国人労働者も今まで以上に採用枠を増やすことが急務となってきた。

今年度、当組合では我々が直面する様々な課題に取り組んでいく。原料費はじめ製造コスト上昇に伴う適正価格への是正活動については、全国グラビア協同組合連合会と連携し、強力で押し進めていく。2026年1月に施行された“取適法”をフォローの風と捉え、適正取引の推進に向けて日本印刷産業連合会、全国グラビア協同組合連合会とも足並みを揃え、強力で取り組んでいきたい。労働力不足については、「外国人特定技能制度」と新たに創設される「育成就労制度」の特定産業分野に当組合が認定された責務を果たすべく、その体制構築を重要事業と位置づけて取り組んでいく。本件は、関係省庁に対して当組合が社会インフラを担う産業であることを強く訴え重要性が認められた結果であり、円滑に制度を運用していくことが、当業界の存在価値向上に繋がると考える。

また、日本印刷産業連合会が認定する印刷業界の環境マーク「GP認定制度」の新規取得を推進する。SDGsと紐づけされているGP認定を取得することは、地球環境の負荷を低減させるだけでなく、企業価値向上につながることを啓蒙していく。GPマーク製品表示について、より一層の理解が得られるようGP認定事業所に対してPR活動を推進し、GP環境大賞『パッケージ印刷部門』とGPマーク普及大賞『グラビア・シール・スクリーン印刷部門』において、継続的に当組合員およびその得意先が受賞できるようGP制度の普及活動を展開していく。

加えて、海洋プラスチックゴミ問題を契機としたプラスチック包材への偏見に満ちた報道は、社会インフラを担っている我々の事業活動に深刻な影響を及ぼしている。当組合では、業界存続の危機と捉え、『軟包装のキャッチコピー』を作成し広報活動を展開している。今期においても、そのキャッチコピー【目立ってしましますが、実力もすごいのです】を活用しながら、食品・日用品・医薬品などの流通を可能にし、フードロスの削減に大きく貢献している当業界事業の重要性を発信していく。

事業計画は以下の通り。

1. 教育および情報提供に関する事業

- ①「特定技能制度」「育成就労制度」を利用した外国人雇用と就労に関する情報提供と支援活動
- ②省エネ・節電取り組みにおける経営支援および諸環境法規（法令）の対応支援活動
- ③労働安全衛生と消防法の法令遵守の啓蒙と完全実施の推進、危険物乙種第4類および有機溶剤取扱主任免許取得、化学物質管理者の選任の奨励とリスクアセスメント実施の啓蒙活動の展開
- ④取適法および優越的地位の濫用の啓蒙と周知への支援活動
- ⑤ SDGs とカーボンニュートラル社会への貢献
 - ・ GP 認定制度の普及
 - ・ グラビア印刷製品 GP マーク表示使用の促進
 - ・ VOC 排出削減の維持と促進
 - ・ 球温暖化防止のための CO2 排出量削減への取り組み
- ⑥改正食品用器具及び容器包装の法規制、働き方改革等の法改正の周知活動
- ⑦事業継続対策の周知活動
- ⑧各単組および青年部による見学会・講習会・セミナー・分科会発表等の開催
- ⑨情報提供

全国グラビア協同組合連合会の機関誌「GPJAPAN」の発行とホームページの充実により組合員・非組合員への情報を提供する。

2. 福利厚生に関する事業

新年会、総会懇親会の開催等の実施。

3. 諸会議の開催

- ①第56回通常総会：令和8年5月中旬開催予定
- ②理事会：事業の進捗状況を見据えて、おおむね2カ月に1回程度開催
- ③委員会：事業の円滑な実施を図るため随時開催

その後、下田専務理事より令和8年度収支予算並びに経費の賦課および徴収方法の説明が行われた。経費の賦課及び徴収方法案については昨年同等の方法で行うとの説明がされたが、暫定措置として承認となった。

第3号議案 令和8年度借入金残高の最高限度額決定

諸石議長より第3号議案の令和8年度借入金残高の最高限度額の提案があり、前期と同額2億円で承認された。

理事会・懇親会

午後3時40分からは同会場において理事会を開催した。

冒頭、吉原理事長から、「最近大きなインパクトがあったのがカルビーの白黒パッケージ。当初はインキ不足との説明がされていたが、インキメーカーによれば前年並みに出荷しているとのことで、経済



産業省もこの状況は十分に把握しており、『ライフラインを支えるパッケージを絶やさず供給し続けている業界の皆様には感謝している』との返答があった。1社固有の事情を取り上げた報道を受け、組合事務所や各社に取材依頼が及び動きもあったが、こうした報道に踊らされることなく、製造と供給をしていきたい。また、値上げについても、サプライチェーンのどこかがシワ寄せを被るような旧態依然の方法はこれまでは通用したかもしれないが、現在は取適法施行やパートナーシップ構築宣言、政府による賃上げ・適切な価格転嫁の支援体制も整っているところだ。GPJAPAN 5月号の巻頭言にも書いたが、英語の Reasonable Price (リーズナブルプライス) とは、安さではなく正当な理由のある価格、適正価格のこと。我々が提供しているのは安心・安全で高機能なパッケージ。お値段同等の適正価格で販売していくことが必要だ』との挨拶があった。



山下雅稔理事

続いて、長年組合活動へ多大なる貢献をいただいた**山下雅稔理事**が今回の総会と理事会をもって退任することとなった。山下理事より、「関東グラビアの理事に就任したのが2007年、全国グラビア協同組合連合会が09年。全く異業種からこの業界に入ったので、右も左も分からない中、田口会長、川田善朗前会長（トーホー加工(株)、故人)のお誘いで理事を務めさせていただきました。心から感謝しております。本当にいろいろな思い出があります。大変お世話になりました。ありがとうございます

いました」と挨拶があった。

赤澤経済産業大臣との面会報告

下田専務理事の進行で議事に移り、はじめに赤澤経済産業大臣との面会報告があった。「目詰まりが起きているものについては経済産業省へ報告してくれば、調査して解消に向けて動くと言ってもらっている」とし、「石油由来の化学品・製品等



情報提供
フォーム

の供給に関する情報提供」フォーム (<https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/kanbo-kaikei02/petrochemical01>) へ具体的に困っている原材料の情報を報告してほしいとの説明があった。



下田幸二専務理事

日印産連関連

2026年度日印産連表彰「印刷功労賞」「印刷振興賞」候補者推薦について、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長に推薦者を一任することが承認された。その他、常設委員会・部会・ワーキンググループ派遣委員、「印刷産業環境ビジョン 2050 2030 年中間目標(用語解説付き)」と環境アドバイザー派遣制度について説明があった。派遣制度は、「まだプランの段階だが3つのコースを用意。個々の企業向けにアレンジしてアドバイスを行う。費用は1日派遣(目安)で、派遣料7万円+交通費(事務手数料含む、支援内容、日数によって変動あり)」とのことだ。

全グラ第56回通常総会

6月11日(木)、12日(金)に北海道で開催される全グラ総会の総会と懇親会の会場(札幌グランドホテル東館3階「玉葉」、「GINSEN」)、フライトスケジュールについて報告があった。



田口 薫顧問理事

関東グラビア協同組合セミナー他

セミナーについては2つの企画の説明があった。1つは、6月29日(月)の関東グラビア協組セミナー(会場:東洋インキ本社京橋エドグラン29階)で、取適法に関して公正取引委員会の石井課長補佐の講演などを行う予定。



関東グラビア
セミナー申込先

もう1つは、7月23日(木)午後2時から、中央労働災害

防止協会による新しい化学物質の管理規制について、グラビアの現場に特化した内容で作業管理者や作業員向けに WEB セミナーを行う。

安永副理事長からはメーカーによる事業撤退や統廃合といった業界動向と現在起きている中東問題の影響等について、田口顧問理事からは過剰品質を解消に向けチームを発足するとの報告があった。削減目標の設定や軟包装業界での AI 活用等、活動を行っていくとのことだった。

すべての決議を終えた午後 5 時ぎ、同ホテルにて懇親会がスタートした。組合員同士での活発な情報交換や、和やかな歓談が行われた。



安永研二副理事長



懇親会の様子

Information

日本食品包装協会、6月17日に 食品包装セミナーを開催

(一社)日本食品包装協会は、2026年6月17日(水)午後3時30分～5時まで、食品包装セミナーをZoomにて開催する。講師に日本女子大学食科学部食科学科の北澤裕明准教授を迎え、「学問としての食品包装」と題した講演を行う。

食品学・食品包装学研究室[®](通称：北澤食品包装学研究室[®])は、2023年4月に設立。食品包装を「学」として語るためには、客観的な審査を経る媒体において研究成果を公表できること、自身が研究活動を遂行していく

中で何が必要とされ、それをどこまで達成できているのかを時折俯瞰できること、他分野との境界に新たな分野を創出できることの全てが不可欠であるとの考えから、講演では、それらの点を踏まえた上で同研究室が実際にどのような活動をしているのかを紹介する。

参加費は同協会会員3,300円、一般5,500円(税込)。定員は先着100名。申込みは<https://shokuhou.jp/news/news3953/>より。

組合員・単組の近況

東海グラビア印刷協同組合

理事会を開催

東海グラビア印刷協同組合（杉山真一理事長、富士特殊紙業株）は 2026 年 5 月 13 日（水）午前 11 時 30 分～午後 1 時まで 10 名の理事・監事参加の下、志の島にて理事会を開催した。



杉山理事長より、事務局変更や新規入会、ナフサショックに関する状況について報告および説明があった。

事務局については、6月より富士特殊紙業株へ変更することが決定した。また、新規入会については、大三紙業株の加入について審議が行われ、今回の理事会において承認された。

ナフサショックに関しては、インキ不足により白黒印刷へ切り替えるパッケージの

話題がニュースに取り上げられていることについて説明があった。経済産業省では、国内には原油・ナフサの備蓄があり、石化製品の原材料調達に支障が出ている場合は、サプライチェーンのどこかで「目詰まり」が発生しているとの認識を示しており、困っている具体的事例があれば報告するよう連絡が

出席理事・監事

理事長	杉山真一郎	富士特殊紙業株
副理事長	浮田信也	大和産業株
理事	笹野周作	オピック株
理事	後藤啓之	中京化学株
理事	石井良明	株石井
理事	田中真人	アサヒパックス株
理事	津田直規	株ピーケーシー
理事	大野広記	株ライブオール
監事	松山元繁	丸八製版株
監事	森 宗治	マルムネグラビア株

※欠席：理事 1 名（大和グラビヤ株）





あった旨が共有された。

また、次回総会および勉強会については、2026年5月22日に開催予定であることを確認した。

その他の意見として、育成就労の状況について関東グラビアセミナーが開催されることの共有や、海外原紙に関する話題が挙げられた。

i Information

GRA、南アフリカで初開催の「Talks Factory@CTP」へ グラビア業界関係者が集結

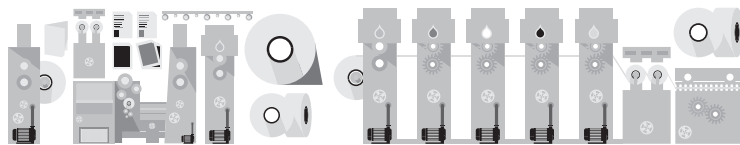
世界のグラビア印刷業者、グラビアシリンドラメーカー、彫刻業者、関連サプライヤーが集まるGRA (Global Rotogravure Association) は、2026年5月5日、6日に、ヨハネスブルグのCTPにて南アフリカ初の「GRA Talks Factory」を成功裏に開催した。アフリカ、ヨーロッパ、アジアのグラビア印刷および包装業界から約30名の参加者が集まり、ネットワーキングや知識の交換、実践的な知見の共有が行われた。

GRAの国際的な「Talks Factory」シリーズの一環として開催された同イベントは、プレゼンテーション、ディスカッション、ネットワーキングを、工場というユニークな会場

で融合させたもの。

イベントはネットワーキングディナーで幕を開け、翌日はCTPの工場施設に参加者が集まり、サステナビリティ、パッケージ開発、静電気対策、コーティングおよびラミネート技術、世界の業界動向など、グラビア印刷に関連する幅広いトピックについて、プレゼンテーションやディスカッションを行った。

登壇者には、GRA会長兼4 Packaging Africa マネージングディレクターのサイモン・ソン氏、ライプツィヒ応用科学大学のルッツ・エンギッシュ教授、CTPのショーン・ブラッドリー氏らが名を連ねた。



特別座談会「日中軟包装産業の現在と未来」を上海で開催 テーマは水性グラビア、フレキソ、デジタル印刷、人材

プラスチック・ゴム見本市「ChinaPlas 2026」会期中の2026年4月21日(火)、中国・上海のNational Exhibition and Convention Center内の会議室において、日中の軟包装業界の現状と未来を語る座談会が開催されました。登壇者は全国グラビア協同組合連合会(全グラ)の会長を務める田口 薫氏(大日本パッケージ(株)代表取締役会長)と中国の軟包装産業に長年従事してきた陳 志雄氏、モデレーターは(株)加工技術研究会の荒木茂雄社長が務めました。ここでは、中国の成長プロセスや水性グラビア、フレキソ、デジタル印刷、人材について抄録を掲載します。

急成長を遂げた中国軟包装業界

—中国の軟包装業界は急速に成長していると実感しています。その背景には、どのような要因があったのでしょうか。



陳 志雄氏

陳 人々の生活に密接に関わる軟包装は必須のニーズであり、中国では人口の多さから市場そのものが大きいです。フォーチュン500に名を連

ねるような有名企業が中国へ進出してきたことも業界の発展に良い影響を与えました。中国の軟包装業界では「日本の技術がなければ、今日の中国の軟包装産業は存在しなかつたろう」という言葉がよく聞かれます。ただ、欧米の軟包装技術を持たずに日本の軟包装技術だけに頼ってれば中国の軟包装産業の未来はないかもしれませ

ん。個人的に見れば、日本は細かい作業が得意でパッケージの外観もすごく綺麗です。欧米は高バリア性といった機能を重視しているようです。

田口 日本の軟包装の始まりは約70年前。印刷方式は手染め捺染。織物と同じ方式でとりあえずスタートしたと聞きます。ただ、生産性が低かったため、そのころ回ってきたグラビアを真似た小さな機械があちらこちらで作られました。そして、日

陳 志雄氏プロフィール

1992年から2005年まで、宝柏包装(PROPACK)の共同創設者として宝柏包装有限公司に勤務し、順次惠州工場の社長と宝柏包装グループの社長を歴任、そこで軟包装パッケージ複合材料の生産に従事し、技術、設備エンジニアリング、研究開発業務を担当する。その後、アルミナカナダ(ALCAN)に買収され、アルミナカナダ包装アジア太平洋地域副社長に就任、アジア太平洋地域の工場の技術・エンジニアリング業務を担当。また、カナダアルミ包装インド初の軟包装パッケージング生産工場を設立し、カナダアルミ包装グローバル5つ星賞を受賞。2011年退職後、複数の企業の技術コンサルタントを務め、「中国包装連合会包装印刷とラベル専門委員会のコンサルタント」を経て、現在は、顧問として助言、指導、支援を行っている。

本の印刷会社がアメリカのライセンスを購入してグラビアが始まりました。その後、セロハン印刷という形で少しずつ広がっていききました。ポリエチレンラミネートについては、自社で押出機を作った企業も出てきました。私が30年近く前に見学団として中国へ行った際は、日本製のフィルム製造機などを持っているのを見て驚きました。そして、現地の技術者が自家製の機械を組み立てている光景も目にしました。とても今のように発展するとは、全く予想もできませんでした。

水性グラビア印刷は主流になり得るか

ー環境規制への対応として注目される水性グラビアについてどのようにお考えですか。

陳 主流にはならないでしょう。水性インキには、解決すべき技術的課題が多数あります。中には70～80%ものエタノールを含むインキもあり、VOC（揮発性有機化合物）の処理が必要となります。また、新たな製版プロセスが必要であったり、乾燥エネルギーの増加、基材の熱膨張による見当ズレ、ラミネート不良、ドクターブレードの摩耗や洗浄の困難さなどの様々な課題があり、環境にやさしいという理由だけで推進するのは難しいと思います。

ー日本の業界はどうでしょうか。

田口 日本の印刷業界は水性化の研究に多額の投資を行い、機械メーカーに印刷機を作ってもらいました。それが日本の水性グラビアの基本データになったと思います。が、主流にはなっていません。水性インキの魅力はなんといっても火災になりにく

いことです。日本で水性グラビアに取り組んでいる会社もあります。飲料メーカーなどのユーザーの中にも「水性でなければいけない」と

いうところもあります。しかし、陳さんの言うとおりに、印刷速度の低下やロスが増大などの課題や、コストが高くなってしまいます。



田口 薫会長

ー中国軟包装業界の設備投資は盛んでしょうか。

陳 中国でも品質基準がどんどん厳しくなっています。なので、新しい機械への投資も増えると考えています。小さな会社でも国の新しい規格や新工場の設備を良くするなどのニーズがあり、投資は増えると思います。

ー今の中国の環境規制は厳格に運用されていると考えていますか。

陳 非常に厳しいと思います。ただ、その規制を実践する中で様々な問題が存在してくると思います。

ー水性フレキソやデジタル印刷には興味を持っていますか。

陳 フレキソ印刷は、50：50のアルコールと水の比率で、プラスチックへの印刷ができるようになっています。デジタル印刷は中国でも少しずつ使われ始めています。



小ロットニーズに適しており、市場では一定の価値を有しています。

現代社会における経済価値の変遷に伴い、「使用価値」「交換価値」「顧客経済価値」に加え、「感情的価値」へのニーズが高まっています。特に若年層においてその傾向が顕著です。感情的価値は売上を左右する要因となることが多いですが、その需要は不安定です。

中国におけるデジタル印刷機器の製造はまだ成熟していません。個人的には、フレキソ印刷は今後5～10年以内に中国の業界で徐々に普及していくと考えています。利点は、環境への配慮、コスト、納期の早さ、そして印刷デザインに対する消費者の高度化・合理化といった現代の発展ニーズを満たすことです。課題の1つには色合わせがあります。これにはソフトウェア技術とハードウェア製造能力の両方が関わってきます。中国の多くの軟包装会社は既にハイエンドのヨーロッパ製フレキソ印刷機を導入していますが、中国の軟包装機器メーカーは、市場の求めるハードウェア面での取り組みを進めているところです。

人手不足と自動化

－人手不足について、日本では「人がいな

い」、中国では「人はいるけど定着しない」ということも聞かれますが、実際はどのようなのでしょうか。

陳 中国では離職率が高く、製品の品質に影響を与えています。問題解決には自動化が一番大事ではないかというのが個人的な意見ですね。

－今後、自動化は必須でしょうか。

陳 個人の経験に頼るのではなく、SOP（標準作業手順書）の確立や、理論に基づいた問題解決のアプローチをシステムとして構築し、インダストリー 4.0 を実現することが、今後の中国の発展には不可欠です。

自動化や AI は人手不足解決の重要手段です。そして、品質問題解決へのアプローチは、現在、中国の軟包装業界における最大の課題です。軟包装とは様々な問題が存在している“難包装”。現場では経験に頼って、技術問題を解決しようとはしますが、それだけでは他の問題が生じます。問題解決には正しいアプローチがあります。1つは問題の本質を突き止める方法を持つこと。2つ目は問題発生の原因を理論上で説明すること。3つ目は先の2つをクリアした上で、解決策と方法を開発する。これを利用

することで問題が繰り返し生じることを避けられるのではと思っています。そして、企業の競争力を高めることが重要。技術の革新力が必要です。

田口 人手不足対策としては、自動化に加え、やはり賃金を上げることです。グラフィアは、工業製品というよりも芸術品を作るような高度な仕事です。優秀な人材にこの業界に来てもらうためにも賃金は高くなくてはいけません。労働条件も変えなければいけません。日本の印刷業界には多くの外国人技能実習生がいます。でも、我々が廃業したら、実習生も来なくなってしまうらどうなるのか、中身メーカーにもこれを訴え、考え、理解してもらいたいです。

技術革新力、過剰品質からの脱却

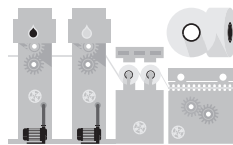
陳 中国の強みは、市場の大きさと学習スピードの速さ、そして設備の製造能力、専門の人材（現場のオペレーター）が多いことです。今後は経験則ではなく、理論に基づいた品質管理で企業の競争力を高める技術革新力が問われる時代になるでしょう。

田口 私は 30 年間、過剰品質の是正に取

り組んでいます。ますます難しくなる一方です。日本では厳しい外観検査によって、10%ものロスが出るのが珍しくありません。わずかな色違いや筋を排除するために、貴重な資源を捨てています。非常にもったいないことです。検査装置メーカーや消費者に協力してもらい、品質基準を明確にして、AI に判定してもらうようにし、消費者が納得できる適正な品質を世の中に認めてもらう。こうした取り組みを実現するのが私の夢です。皆さんにもそういう気持ちで、お客様に「もったいない」を分かってもらうことをお願いしたいと思います。

2000 年代に上海を訪れたときにも現地企業と座談会を行いました。同業者の社長から「中国でも安売りが多くて困っている」という相談を受けたので、孔子の論語（子貢問政）の一節「食を足し、兵を足し、民之を信ず」を例に、「値段ではなく、信頼で勝負すべきだ」と答えました。無駄な競争を省き、有益な競争をすることこそが我々の使命だと思い、全グラを牽引し、粘り強く尽力していきたいと考えています。





グラビア研究会 第12回グラビア基礎講座 7月22日にオンライン開催

2026年7月22日(水) 午後1時30分～5時まで、グラビア印刷技術研究会主催による「第12回グラビア基礎講座－グラビア印刷、基礎からトラブル対処まで－」(協賛:関東グラビア協同組合、全国グラビア製版工業会連合会)をZoomにて開催する。

今回の講座では、従来からのフィルム(基材)、機械、製版、インキに加え、要望の多いラミネートを加えた5つのテーマで基礎(原理・用語解説)からトラブル対処までを学べるプログラムで、印刷に携わって2年目以降の方がステップアップを目指すのに適した内容となっている。各講義では質疑応答も受け付けており、当日返答できなかったものは後日回答が送られる予定。プログラム、申込方法などは以下の通り。

13:30～13:35 開会の挨拶/諸注意/包装概要

13:35～14:10 グラビア印刷時のフィルムの取り扱いに関する留意点

講師:ユニチカ(株) 大葛貴良氏

14:15～14:50 グラビア印刷機の基礎

講師:富士機械工業(株) 西村高博氏

14:55～15:30 グラビア製版の基礎

東洋FPP(株) 松崎徳治氏

15:35～16:10 グラビアインキの基礎、印刷時のトラブルシューティング

サカタインクス(株) 加藤純章氏

16:15～16:50 ラミネート加工の基礎、トラブルシューティング

東洋モートン(株) 武本昇氏

16:50～17:00 質問への対応/閉会の挨拶

定員：200名（定員になり次第締切）

申込締切：2026年7月14日（火）

参加費：正会員・協賛団体員 5,000円（協賛団体：関東グラビア協同組合、全国グラビア製版工業会連合会）、非会員 7,000円、学生・教職員 1,000円

※視聴者1名あたりの費用。複数の方が同一PC等から参加する場合も、申込者とメールアドレスを同じにして聴講者ごとに人数分を申し込む

申込方法：①日本印刷学会申込フォーム URL：

<https://www.jspst.org/generateApplicationForm.cgi>

②フォームに記入、送信後に指定口座に参加費を振り込む。

振込期限：2026年7月14日（火）

振込口座：みずほ銀行（銀行コード 0001）銀座支店（店番 035）普通口座

口座番号：0050227 口座名義：シヤ) ニホンインサツガツカイ

※振込の照合のため、振込者名は申込時の登録者の名前（フルネーム）とする

※振込手数料は振込者負担

※参加費の領収書は金融機関から発行される振込票などをもって代える

※参加費振込後の申込取消は不可。代理参加可能



【注意】

・ホームページが利用できない場合は、参加希望の催事名称と申込者の氏名、所属、連絡先、Eメールアドレスを明記し、連絡先メールアドレス宛またはFAXで申し込む

・申込フォームからは会場参加を選択できるが、オンライン参加のみ

参加案内：参加費の振込確認後に、参加認証メール（7月17日（金）午後一斉配信予定／セミナー視聴用URLと資料PDFダウンロード方法を記載）を申込時に登録されたEメールアドレスに配信

※迷惑メール設定をしている場合は、同学会からのメールが受信可能な設定にする

※7月17日（金）中に参加認証メールが届かない場合は、下記連絡先に問い合わせを

連絡先：（一社）日本印刷学会事務局

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

TEL：03-3551-1808 FAX：03-3552-7206

E-mail：nijspst-h@jspst.org

NEDO、三井化学(株)、東レ(株)

フィルム包装製造 CO₂ 排出量を約 6 割削減 業界初のプロセスと EB 硬化型接着剤を開発

NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助事業「脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム／省エネ軟包材ラミネートシステムの開発」において、三井化学(株)と東レ(株)は共同で、無溶剤ラミネーションと電子線（EB）照射をインラインで行うプロセスと、ラミネーション工程用接着剤を業界で初めて開発した。

1. 背景

今回、三井化学が保有するウレタン接着剤技術と東レが保有する EB 硬化型フレキソ・オフセット印刷技術を融合することで、EB 硬化型接着剤の接着性能を大幅に向上させることに成功した。また、インラインにてラミネーションと EB 照射を行うプロ

セスの開発により、フィルム包装製造におけるラミネーション工程の年間消費電力を 309 万 kWh、CO₂ 排出量にして 1,290 トン、約 61% の削減を達成した。

今後は、印刷からラミネーションまでを含むフィルム包装製造工程全体の省エネルギー化と CO₂ 排出量削減を図り、環境対

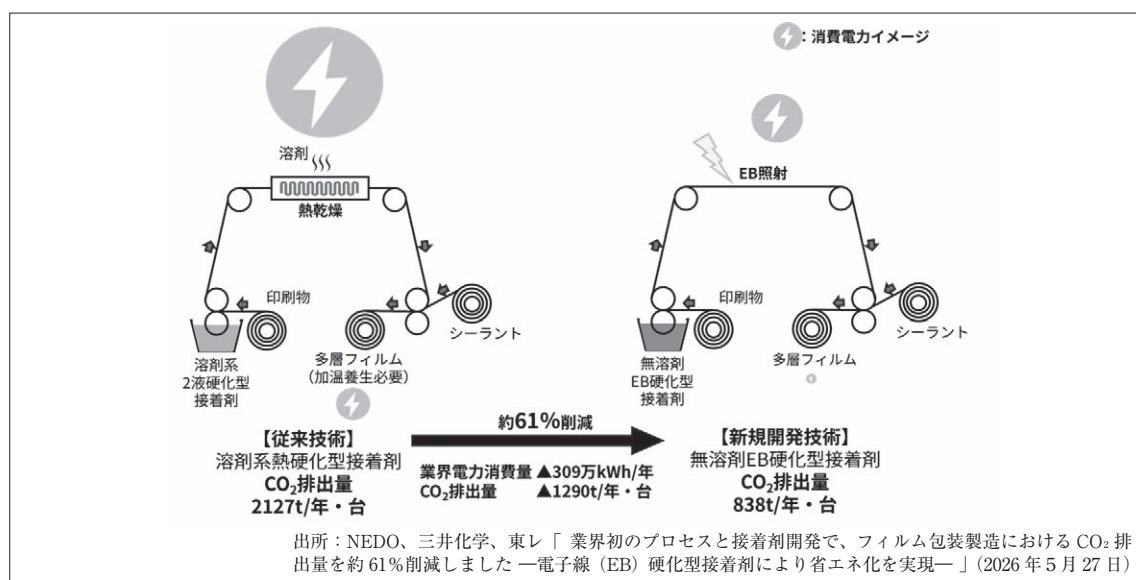


図1 開発した新技術と従来法の比較イメージ

応と生産性向上の両立を実現する。

フィルム包装材は、製品の保護やバリア性、耐熱性、耐薬品性を高めるため、ラミネーションによる多層化が施されている。軽量性や透明性、加工のしやすさを生かして、食品包装やシャンプー・洗剤などの詰め替えパウチなどに広く利用されている。また、ビンや缶、プラスチック容器からフィルム包装材への移行は、省資源化やフードロス削減に貢献している。フィルム包装材の世界市場は2022年時点で約38兆円、年間成長率は3.2%^{*1}と拡大を続けている。

国内のフィルム包装材製造におけるCO₂排出量の内訳(図2)は、フィルム工程52%、インキ・印刷工程32%、ラミネーション工程16%。フィルムや印刷工程では、バイオ原料の活用やモノマテリアル化、無溶剤化など、CO₂排出量削減に向けた取り組みが進んでいる。

一方、ラミネーション工程では、従来の接着剤に石油系溶剤が使われ、塗工後の加熱乾燥や燃焼処理で多量の電力を消費している。さらに、接着剤はラミネーション直後に完全硬化していないため、外観不良を防ぐ目的で加温処理(熱養生処理、5日間

程度)が必要となる。この工程により製造時間が長くなり、電力消費も増加する。そのため、ラミネーション工程におけるCO₂排出量削減は、早急に対応すべき課題となっていた。

このような背景の下、NEDOは2023年度から今回の事業^{*2}の一環として、三井化学、東レと共同で「省エネ軟包材ラミネートシステムの開発」に取り組んできた。

2. 今回の成果

三井化学と東レは、同事業において、フィルム包装ラミネーション工程の溶剤系接着剤に代わり、無溶剤系EB硬化型接着剤を採用し、インラインにてラミネーションとEB照射を行う新技術を共同開発した。

現在のラミネーション工程は、溶剤系2液熱硬化接着剤を使用するため、塗布後の溶剤乾燥、貼り合わせ後に加温処理が必要であり、ラミネーター1台あたり年間約2,127tのCO₂を排出^{*3}している。無溶剤系接着剤を用いることで溶剤乾燥を省く方法もあるが、加温処理時間の延長や加工速度、接着性能の低下などの課題がある。

今回の共同開発では、三井化学のウレタン接着剤技術と東レのEB硬化型印刷技術を融合し、EB硬化型フレキソ・オフセット印刷技術をウレタン接着剤に応用することで、接着性能を大幅に向上させた。また、ラミネーションとEB照射をインラインで行うプロセスにしたことで、溶剤乾燥が不要となり、加温処理時間の短縮と低温化が可能となった。この新技術は、従来技術で課題となっていた硬化性や加工性を解決し、溶剤を含まないことからVOC(揮発性有機溶剤)フリー化にも貢献する業界初の次世代ラミネーションプロセス^{*4}となる。

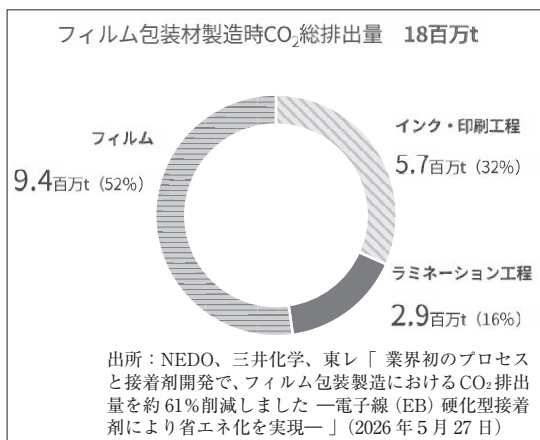


図2 フィルム包装材製造時CO₂総排出量と内訳(三井化学、東レ共同調査、2020年)

(一社) 日本印刷産業連合会

適正ではない取引に関する報告・相談窓口を設置

(一社) 日本印刷産業連合会 (日印産連) は、業界内で取引改善への対応を検討することを目的に今年度に新設した「取引適正化推進プロジェクト」を中心にサプライチェーン全体での価格転嫁促進および取引慣習の見直し等、健全な商取引を推進しています。同プロジェクトの一環として、日印産連の Web サイトに印刷業界独自の「適正ではない取引に関する報告・相談窓口」を設置しました。

報告・相談窓口の主な目的

- ・ 中小企業が声を上げやすくするため、安心して率直に意見が言える環境の整備
- ・ 不公正取引の早期発見・早期是正
- ・ 行政 (経済産業省→公取委・中企庁) への報告、相談、エスカレーション機能
- ・ 取引適正化の自主行動計画・標準契約書・ガイドラインへの反映等、業界全体の取引慣行の標準化

報告・相談窓口の概要

- ・ 利用対象者は、日本印刷産業連合会の会員 10 団体加盟企業
- ・ 取引上で不適正な点、またはその懸念がある取引事例を定型フォーマットで回答
- ・ 回答内容は、取引適正化に向けた実態把握、対策の検討、中企庁等への報告、相談に活用し、個別の企業名が公表されることはない。匿名での報告・相談も可能

報告・相談窓口入力フォーム

<https://www.jfpi.or.jp/transactions/id=8506>



この窓口の設置の他にも、会員企業を対象にした業界独自の取引実態調査を年 2 回実施します。これらの施策は昨年 11 月に実施された経済産業大臣政務官との価格転嫁・取引適正化の取組に関するハイレベル面談のフォローアップとして、経済産業省商務・サービスグループ文化創造産業課とも連携していきます。

酒は永遠の友

vol.17

田口 薫

ワイン、ビール、ウイスキー、焼酎はふんだんにあるのに、清酒がないとはどこの国のパーティーか。清酒業界はあれだけの商品を持っていながら、有名ホテルに置いてもらえないのはメーカーの営業努力不足だろう。ビールメーカーやウイスキーメーカー並みに売り込んでいけば、握り寿司、天ぷら等、和食も揃っているのだから清酒の良さや改良された新商品で新しいファンを獲得できるだろう。

以前、関西の成長株、日新シール工業(株)さんのご長男の結婚式が大阪・帝国ホテルで催されたが、その際、台車に10種類ほどの大吟醸の一升瓶を並べ、各客席を回って好きなだけ大吟醸を堪能できるように工夫をされたのは社長ご夫妻のアイデアだろう。関西は早くから外国人労働者を研究され、現在のグラビア業界における外国人研修生の受け入れはそこから始まっている。いわば、隠れた功労者だと思っている。関西人は工夫する。外国人は芳生グラビア印刷、菅野包装さん等も研究熱心だと聞いている。



三越、高島屋、伊勢丹、松坂屋等のデパートはすべて関西発祥であり、パナソニックをはじめとするメーカーも関西系が多い。関東は東芝、日立等、メーカーの老舗が多い。商いはやはり関西だろう。

江戸発祥の豪商、紀伊國屋文左衛門は取り潰された。しかし、和菓子、佃煮、かまぼこ、天ぷら、寿司、割烹の中には創業150年以上の老舗が盛業中だ。日本には創業100年の企業が33,076社と世界一だ。世界では80,066社だから、比率は41.3%、ダントツ1位だ。2位はアメリカの19,497社、3位スウェーデンと続く。200年企業となると、日本が1位1,340社、2位がアメリカ239社、3位ドイツ201社、4位イギリス83社、5位ロシア41社(日経BPコンサルティング、2020年4月6日発表)となっている。

なぜ、日本がダントツなのだろうか。日本の会社には家訓があると聞いている。欧米にも家訓はあるのだろうか。日本は昔から、私事より公を大切にする。会社の金は自分の自由にせず、会社のために使う。私利私欲は禁じる。「金を残すは下、仕事を残すは中、人を残すは上」と言われるが、元は大ゴロツキと言われた後藤新平の言葉だ。関東大震災後の東京復興を成し、台湾総督府民生長官、満鉄総裁、鉄道院総裁として、日本の近代化と植民地経営に手腕を発揮し、何よりも人民から感謝された。今の日本にはこんな政治家が求められる。



それにしても天災も多く、太平洋戦争で壊滅的な被害を受けた日本がなぜ世界一なのか。経営トップをはじめ、会社全体で続けていこうとする意志はすごい。真似できることは真似したい(学びたい)ものだ。フジテレビのような大きな企業も公私混同によって世間か

ら責められ、大きなダメージを食らう。トップは大きな権限を持つからこそ、自戒の念と従うべきルールを守ること、内部でトップをいさめる人が必要で、やりたい放題になってはいけない。

しかし、絶対権力者は自分のわがままで墓穴を掘る。ローマ帝国の皇帝、中国の歴代王も己に克つことができず、王朝が滅びる。春秋戦国時代には理想の政治を説いた。孔子、孟子、韓非子、老子、莊子、墨子等の思想家が出た。孔子は山東省の人で主君につかえず、各国を回って道を説いたが、その問答録が「論語」だ。後世の日本はこれを重要視し、本国よりはるか熱心に学んだ。戦国の世が終わり、徳川の泰平の世になると徳川家はもちろん、各藩に藩校を作って四書五経を学ばせた。戦い、人を殺す武士に剣の道と剣術、四書五経を学ばせた。庶民には読み書き、そろばんを教え、200年前の識字率は日本がダントツ世界1位だった。



ちょんまげ、帯刀、ザンギリ、四民平等まで一気に西洋文明を吸収して、40年で3等国が1等国ロシアを破る奇跡を起こし、先進国を驚かし、関税等の不平等条約を改正させて、一流国になった。国民全体のレベルを外国から認められたその元は徳川265年にあったと考えるべきである。日清、日露で活躍した人々は幕末の生まれで、四書五経を学んでいる。幕末の日本は危機を迎えていた。米露英仏に囲まれ、鎖国の日本をどうするか、西欧の帝国主義の餌食になる瀬戸際だった。“眠れる獅子”と言われ鎖国を守っていた世界一の大国、清もアヘンを売り付けられ、国民がアヘン中毒になり、アヘンを買うために銀が流出し経済危機になり、アヘンの荷を海上に投棄してイギリスと戦争になった。1840年は明治維新の28年前である。英国側はインド陸軍の協力も得て、19,000人が戦い、約500人が負傷した。清側は20万人が参戦し、2万人の死傷者を数えた。

また、台湾はオランダの領地であり、フィリピンはスペインの領土となり、領民はキリスト教に改宗させられ、ここを拠点にイエズス会が日本もカソリックにし、あまつさえ領土にせんと近づいていた。徳川時代、日本は鎖国をしていたが、大分県臼杵市に漂着した英国人ウィリアム・アダムス、ヤン・ヨーステンらを重用し、海外の事情を学んだ。その前の戦国時代は種子島沖で遭難したポルトガル人から鉄砲を入手し、それから刀鍛冶が模倣改良し、あっという間に世界一の鉄砲生産国となる。



日本人は発明は今一つだが、模倣改良には才を発揮する。徳川幕府は日本をカソリックに改宗させて政権を取らんとすると見抜いて、1612年、2代将軍秀忠は禁教令を出す。初代家康は名君として称えられ、秀忠は凡庸として語られているが、この令や武家諸法度、公家諸法度、大名の改易等、内政を固めた。決して凡人ではない。徳川が続いた1つの理由は秀忠の内政手腕によるところが大きい。歴史家の加来耕三によると、信長、秀吉、家康のうち、スケールの大きさ、軍事、経済に関してのビジョンは信長が優れている。楽市楽座は経済を活性化させ、鉄砲生産を世界一とし、交互に弾を込める射撃戦法、鉄甲船の建造…。本能寺で死ななければ中国の明を攻めただろうし、経済は家康のように米中心ではなく、貨幣経済として時代を先取りしてモノの流通も抑え、日本が近代化し、帝国主義の欧州と戦ったかもしれないという壮大なロマンだ。